

【各論】

# 6. 糖尿病とピロリ菌感染

今井 淳太 *Junta Imai* (東北大学病院糖尿病代謝科講師)

片桐 秀樹 *Hideki Katagiri* (東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野教授)

● **key words** B型インスリン抵抗症／インスリン受容体抗体／除菌／2型糖尿病／1型糖尿病

### はじめに

ヘリコバクターピロリ (*Helicobacter pylori*: HP) はヒトなどの胃に生息し、胃・十二指腸潰瘍や胃癌の原因となることが知られているらせん型のグラム陰性菌である。HPは胃・十二指腸疾患のみでなく心血管疾患<sup>1)</sup>、認知症<sup>2)</sup>やパーキンソン病<sup>3)</sup>などの神経疾患、COPDなどの呼吸器疾患<sup>4)</sup>、鉄欠乏性貧血<sup>5)</sup>や血小板減少症<sup>6)</sup>などの血液疾患など幅広い分野の疾患との関連が示唆されているが、そのメカニズムについては不明な点が多い。

糖尿病とHP感染の関連は現時点で明らかになっていないが、最近、その関連を示唆する報告が散見される。本稿では糖尿病とHPの関連について概説する。また、以前われわれが経験した特発性血小板減少性紫斑病 (immune thrombocytopenic purpura: ITP) と合併し、HP除菌で病態が改善したB型インスリン抵抗症の症例について紹介し、推定される病態改善機序などについて解説する。

### I 糖尿病とピロリ菌感染

最近、HP感染者で2型糖尿病の罹患率が有意に高いこと<sup>7)</sup>や、逆に2型糖尿病患者で有意にHP感染率が高いこと<sup>8)</sup>がそれぞれ中国、インドのグループから報告された。また、糖尿病、非糖尿病を含む集団において、HP感染者で、より強いインスリン抵抗性が認められること<sup>9)</sup>やヒトにおいてHP感染が肝臓のインスリン抵抗性を惹起する可能性があること<sup>10)</sup>などが報告されており、HP感染は2型糖尿病の発症に関与している可能性がある。しかし一方、日本人においてはHP感染と2型糖尿病の罹患に関連を認めなかったとの報告がなされており<sup>11)</sup>、現時点でその関連については不明である。HP感染が2型糖尿病発症に関連しているとすれば、HP除菌が2型糖尿病の血糖コントロールを改善する可能性なども考えられるが、それについてははっきりしたことがわかっておらず、さらなる検討が待たれる。

1型糖尿病とHP感染についての報告はさらに数が少なく、1型糖尿病発症とHP感染の関連などについては明らかになっていない。1型、2型糖尿病患者ではHPの除菌効率が悪いことがメタ解析の結果で報告されており<sup>12)</sup>、糖尿病患者でHPの除菌を行う際には注意が必要である。また、メタ解析の結果で1型糖尿病において血糖コントロールが良好な場合にはHP除菌後の再感染率が有意に低いこ